

GRENE-Arctic

北極海航路の利用実現に向けた研究課題とは。
今後の研究の方向性や、産業界をはじめとする
ユーザーと連携した研究へのフィードバックのあり方は。
最前線の研究者による公開特別セミナーを開催します。

GRENE 北極気候変動研究事業 特別セミナー開催

北極海航路の 利用実現に向けて

参加者受付中

日時：11月17日(月) 開場 9:00 開始 9:30

会場：東京海洋大学品川キャンパス 楽水会館

定員：先着順 150名 参加無料 (定員になりしだい締め切ります)

情報・システム研究機構国立極地研究所 ホームページで申込受付 <http://www.nipr.ac.jp/grene/>

主催 情報・システム研究機構国立極地研究所
協力 宇宙航空研究開発機構 / 東京海洋大学

情報・システム研究機構国立極地研究所（所長：白石和行）が代表機関を務める GRENE 北極気候変動研究事業の山口一東京大学教授らの研究グループが、北極海航路の利用実現に向けた研究課題を明らかにするとともに、今後の研究について公開特別セミナーを開催します。

北極海航路の運航環境及び運航実績と実態分析、及び北極海航路運航支援・利用実現に向けた最新研究成果を研究グループのメンバーが紹介し、最新の情報と研究成果を提供するとともに、北極海航路の利用実現に向けて、取り組むべき研究課題を明らかにしていきます。

本セミナーは北極海航路に関する今後の研究の方向性や、産業界をはじめとするユーザーと連携した実用分野から研究へのフィードバックのあり方についても議論、検討する場として公開の形で実施します。

第Ⅰ部：北極海航路のいま（9：40 - 10：30）

- ◆プロジェクトのめざす将来
山口一／東京大学大学院 新領域創成科学研究科 海洋技術環境学専攻・教授
- ◆北極海航路のいま～北極海航路でなにが起きている？ 利用状況、経済性、展望
大塚夏彦／北日本港湾コンサルタント（株）・企画部長

第Ⅱ部：北極海の海水を知る～ここまできた北極海の海水研究（10：35 - 12：35）

- ◆海水分布予測の鍵を握るもの～海水および海洋循環と海洋熱の変動、海水の積み重なり
島田浩二／東京海洋大学 海洋環境学部門 環境システム科学講座・准教授
- ◆ここまできた北極海の海水観測、海水の厚さを知る
舘山一孝／北見工業大学 社会環境工学科・准教授
- ◆航行計画支援に向けた海中中期予測
木村詞明／国立極地研究所・東京大学大学院 新領域創成科学研究科・特任研究員
- ◆航行支援に向けた海水短期予測
小野 純／海洋開発研究機構・特任研究員
- ◆北極海の海洋構造モデルと海水長期予測
川崎高雄／国立極地研究所・東京大学大気海洋研究所・特任研究員

第Ⅲ部-1：北極海の航行安全に向けて（13：25 - 14：35）

- ◆北極海の航行安全～多様な課題とその取組に向けて
尾関俊浩／北海道教育大学・教授
北川弘光／海洋政策研究財団・特別研究員
- ◆船体に及ぼす海水荷重
金野祥久／工学院大学機械工学科・准教授
- ◆氷海中の油流出事故～その特徴と取組の現状及び課題
泉山 耕／北日本港湾コンサルタント（株）企画部総合研究室・上席研究員

第Ⅲ部-2：北極海の航行支援に向けて（14：40 - 15：50）

- ◆海水情報サービスと航行支援の現状
佐川玄輝／（株）ウェザーニュース水気象チーム・リーダー
- ◆最適ルート選択モデルの検討
高木敏幸／釧路工業高等専門学校 電気工学科・教授
- ◆最適ルートと運航支援モデル化に向けて
中野佑哉／東京大学大学院 新領域創成科学研究科・修士2年

休憩（15：50 - 16：30） Poster Session

総合討論：北極海航路利用実現に向けて、研究課題と展望（16：30 - 17：45）

- ◆これからの北極海の利用と保全に向けて～科学・工学分野が取り組むべき課題とは？
- ◆航行実現に関する課題～事業界が求めるもの。
- ◆実現に向けて、何ができるか、するべきか？

東京海洋大学品川キャンパス

東京都港区港南 4-5-7

<http://www.kaiyodai.ac.jp/info/access/22417.html>

楽水会館 <http://www.kaiyodai.ac.jp/info/37/38.html>

- ・JR線、京浜急行線 品川駅港南口(東口)から徒歩約10分
- ・東京モノレール天王洲アイル駅から
「ふれあい橋」を渡り正門まで約15分
- ・りんかい線天王洲アイル駅から
「ふれあい橋」を渡り正門まで約20分



＝お問い合わせ先＝

国立極地研究所北極観測センター
企画チーム

電話：042-512-0922